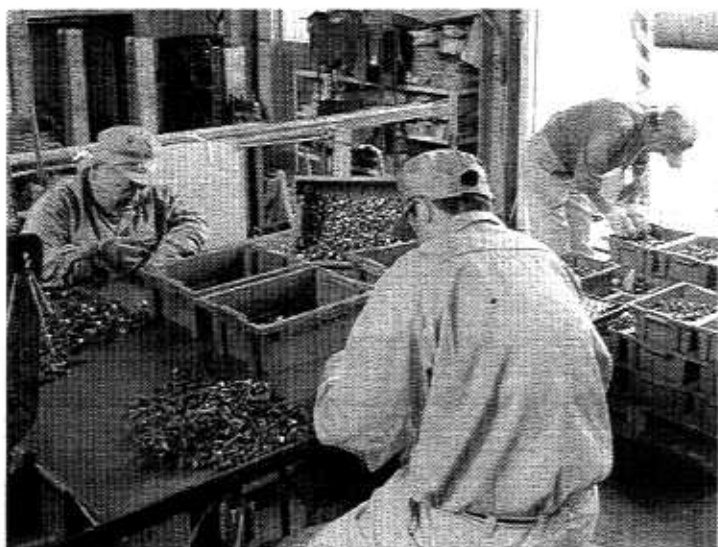


# 障害者の就労支援

自動車や住宅など幅広い用途のねじを製造する協栄製作所本社工場(五條市住川町のテクノパーク・なら)内、金谷伸司工場長)が10月から、地域の知的障害者の就労を支援する取り組みを始めた。

障害者の自立を支援する民間団体「サポート21・なら」(馬郡へま)おり(繁代表)のコーディネートで、地元の社会福祉法人や特別支援学校との連携が実現した。企業、施設、学校、それぞれのニーズをつなぐ包括的な支援は、民間のコーディネートならではこの成果。馬郡代表は「このような取り組みが、テクノパー

## 五條の協栄製作所 受け入れ始まる



施設外での就労訓練として仕事に取り組みむ障害者  
=10月30日、五條市住川町の協栄製作所

ク・なら全体に広がればうれしい」と話している。「障害者の支援を通して地域貢献をしたいが、どんなことができるか」。内の様子を見学した後

同社が「サポート21・なら」に相談を持ちかけたのは、今年6月のこと。馬郡代表は自らが工場

学校(同)の間の調整を行った。  
10月から「コッペ大淀」の男性利用者2人(40歳代)と、彼らを補助する同施設のスタッフ1人が工場に通い、ボルトとナットを組み合わせて、ねじを仕上げる作業に従事。

同社は、従業員75人の

で、地元の施設で職業訓練中の障害者に施設外就労の場を提供すること▽地元の特別支援学校生の職場実習受け入れ▽同校が実施する作業訓練のための仕事の提供―を提案。同社と、社会福祉法人せせらぎ会が運営する指定日中活動多機能型施設「コッペ大淀」(大淀町下刈)、県立大淀養護

## ねじ仕上げ、梱包



職場実習で製品の梱包を体験する特別支援学校生(同)

うち身体障害者が2人いるが、知的障害者の受け入れは今回が初めて。甲斐徹・製造兼技術部長は「配慮の必要な部分はもちろんあるが、予想以上に仕事ができている。今後、取り組める範囲をどう広げていくかが課題」と話した。

10月30、31日には、大

淀養護学校高等部の男子生徒2人が同社で職場実習を行い、製品の梱包(「こんぼう」)や簡単な事務作業などを体験。男子生徒(1年)は「難しいこともあったが、できるようになる喜びがあった」とすこく楽しかった」と将来の就労への手こたえをつかんだ様子だった。